

アワビ養殖の企業化を目指して —漁業と観光で手を取りあって—

鬼脇漁業協同組合青年部
上 田 隆 司

1.地域の概要

名峰「利尻富士」に象徴される、手つかずの自然が残る北の島「利尻島」は、年間約50万人の観光客が訪れる漁業と観光の島である(図1)。私たちの住んでいる利尻富士町鬼脇地区は、島の東南に位置し海岸線は18km、人口約1千2百人の漁村である。

2.漁業の概要

私たちの所属する鬼脇漁業協同組合は組合員数180名で構成されており、主な漁業は主産地として名高いリシリコンブやエゾバフンウニ、キタムラサキウニ等を対象とした浅海漁業と、カレイ刺網やタコいさり曳き等の漁船漁業であり、平成12年の総水揚げは約5億3千万円となっている。

3.研究グループの組織及び運営

私たちの青年部は、昭和34年に設立され現在部員数14名で構成しており、漁協からの助成と会費、及び事業収入で運営している。主な活動内容は、エゾアワビ養殖試験事業、先進地視察、マリーンスクール等交流事業、漁業生産技術研修会や町内で実施される各種事業への参画等である。

4.研究・実践活動課題選定の動機

利尻島には毎年春から夏にかけて多くの観光客が訪れ(図2)、新鮮な海の幸に人気が集まり、なかでもアワビはウニと並んで人気がある。

エゾアワビの漁期は昭和57年、及び昭和59年から平成10年にかけて全面禁漁であり、再開された平成11年からも10月から12月にかけての秋冬と、観光客によって消費されることは多くない。

このような現状のなかで、訪れる人たちに美味しいアワビを食べてもらいたいと検討した結果、春から夏の観光シーズンに対応できるアワビ養殖に取り組んだ。

5.研究・実践活動状況及び効果

(1)成長生残調査

平成9年から12年にかけて、栽培漁業振興公社からエゾアワビ35mm種苗と50mm種苗を年間1千個から1万個購入した。平成12年から13年にかけては、ひやま漁協から50mm種苗を年間2千5百個から5千6百個購入した。各種苗は海上浮き施設内のカゴに収容し、生コンブを給餌した(図3)。

この活動から主に育成技術を習得し、35 mm種苗を2年目に60 mm弱へ、50 mm種苗を1年目に60 mm台へ成長させることができた(図4)。各種苗の生残率は63.4~89.2%、平均82.5%であった(表1)。

(2)先進地視察

平成12年3月、檜山管内の、上ノ国町栽培漁業センター、栽培公社熊石支所、ひやま漁協熊石支所あわび養殖部会、ひやま漁協熊石支所あわび中間育成施設、大成町水産種苗育成センターを視察した(図5)。アワビ養殖の先進地における、飼育密度等の育成管理や種苗の生産状況について学び、育成技術や種苗購入に反映した。

(3)試験販売

平成12年から13年にかけて、試験販売を実施した。

販売準備として、生育状況や種苗購入費、諸経費から原価を試算し、殻長70 mm以上を大として1個¥600、65 mm以上を中として1個¥450と販売価格を設定した。販売先は島内宿泊施設とイベント販売に絞り込み、地元マスコミへの宣伝やポスター作成、配布等と販促活動に取り組んだ(図6)。

平成12年度の販売実績は、8月に島まつりのイベント販売で大35個、中259個、9月から12月にかけて主に宿泊施設向けに大152個、中363個を販売した。売り上げは39万2千1百円であった。

平成13年度の販売実績は、8月に島まつりのイベント販売で大27個、中127個、5月から10月にかけて主に宿泊施設向けに大433個、中208個を販売した。売り上げは44万5千8百円であった(図7)。

試験販売から、需要は総じて大に集中し、中の需要は主に大の代替であることを確認した。また、イベント販売では地元住民の需要と好反応を実感し、今後の販売への自信となった。

(4)勉強会

平成11年度から13年度にかけて11回の勉強会を開催し、漁協や町水産課、水産指導所を交え、各年度の計画や成長生残調査結果、先進地視察、販売等について協議した。

取り組んできた実践活動を定期的に振り返り、種苗の状況、育成技術、出荷や販売まで等と(表2)、アワビ養殖についての理解を深めた。

6.波及効果

アワビ養殖を通じ、育成技術の習得はもとより、種苗の仕入れ、原価や諸経費の試算、販売等の物流に係わる活動は新鮮な刺激となり、他の漁業への参考となった。

これまで5年間の活動全般を通じ、何事も地道に行う事で成し遂げられるという自信が生まれ、部員の志気が高まった。

7.今後の計画と問題点

平成14年度も、成長生残調査、試験販売、勉強会を実践活動として計画している。また、販売等に係わる先進地視察へ、積極的に参画する考えである。

当面の課題としては、販売増と飼育期間の短縮が挙げられる。販売増については、観光客数から潜在需要は十分あると考えられるため、消費者への宣伝や、顧客満足度を把握す

るためのアンケート調査等を展開する計画である。飼育期間の短縮については、平成 14 年度に完成予定の陸上水槽で、周年水温 10℃前後の地下海水を利用して冬期間の成長を見込んでいる。また、飼育密度の見直し等による育成技術の改良も考えている。これらにより、需要の集中する大サイズの増産に対応する計画である。(図 8)

平成 13 年度の反省点として、イベント販売での売り上げが前年を下回った。主な原因は人員不足のため、海上施設から売り場までの供給体制が整わず、需要はあるが欠品している状況、いわゆる「売り逃がし」と考えられる。今後、陸上水槽を活用したイベント販売と同時に、注文を受け配達する等といった対応を考えている。

将来的には占有する海面や、施設の規模増大に係わる比較的大きな課題等に直面するとも予想されるが、積極的に取り組む考えである。

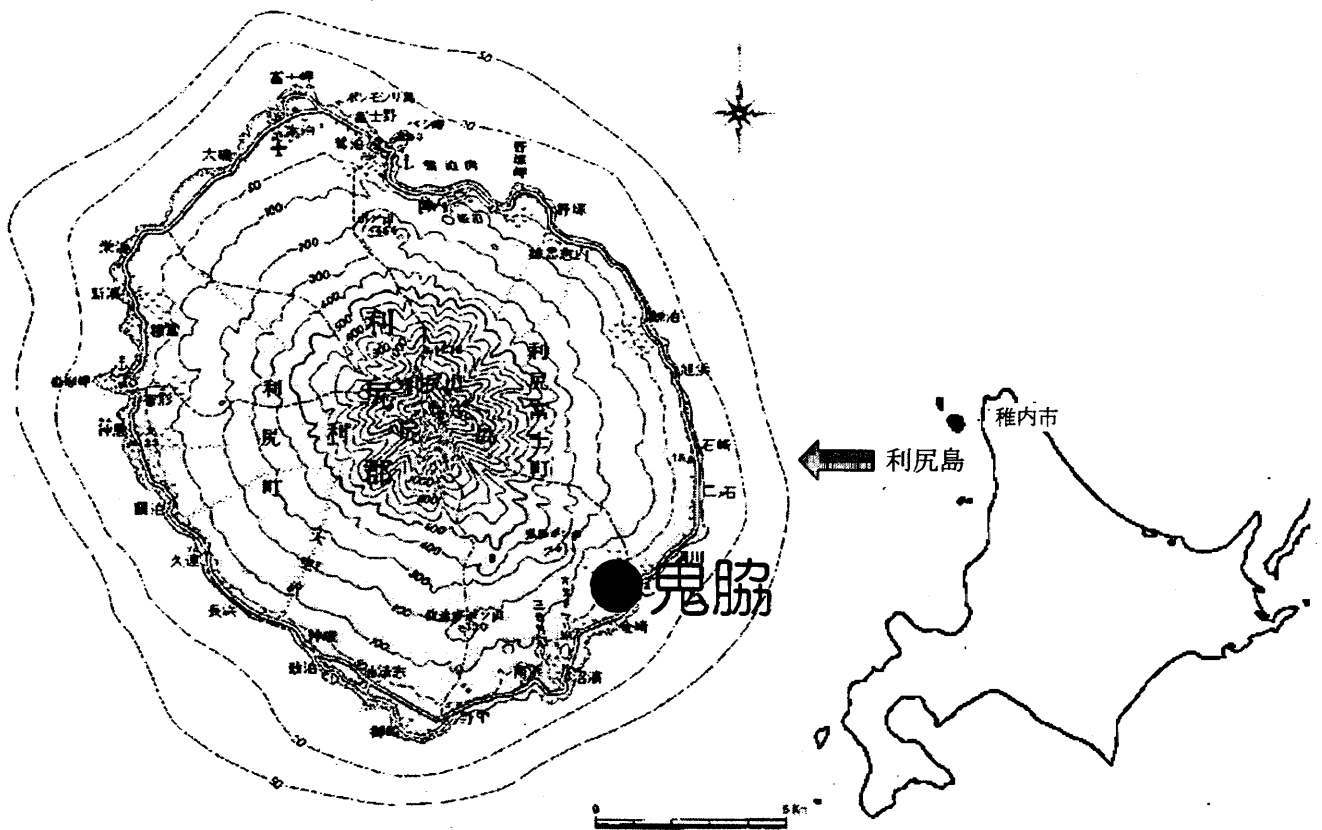


図1：地域の位置図

利尻島

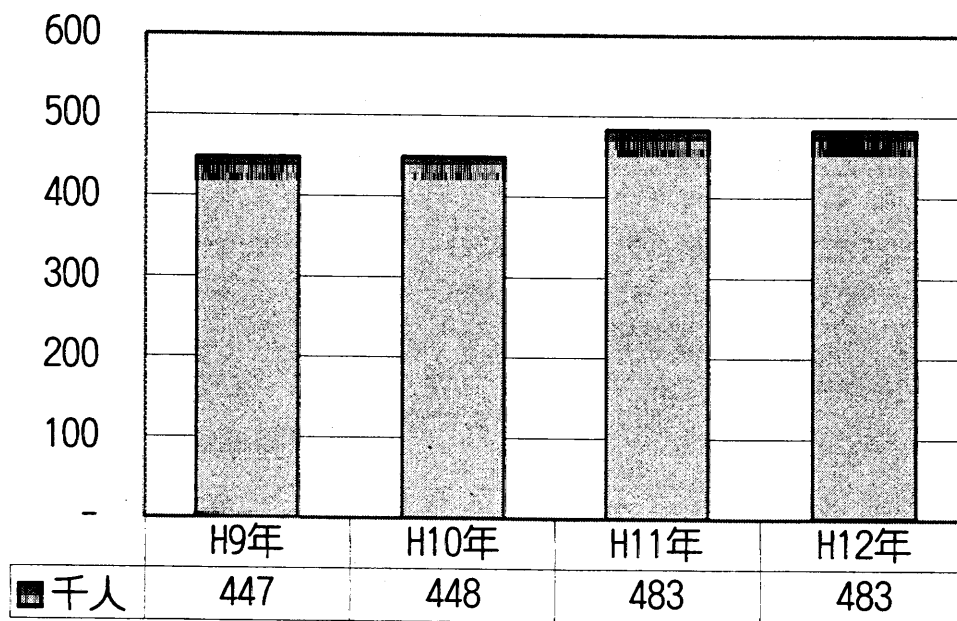


図2：利尻島観光客入込数

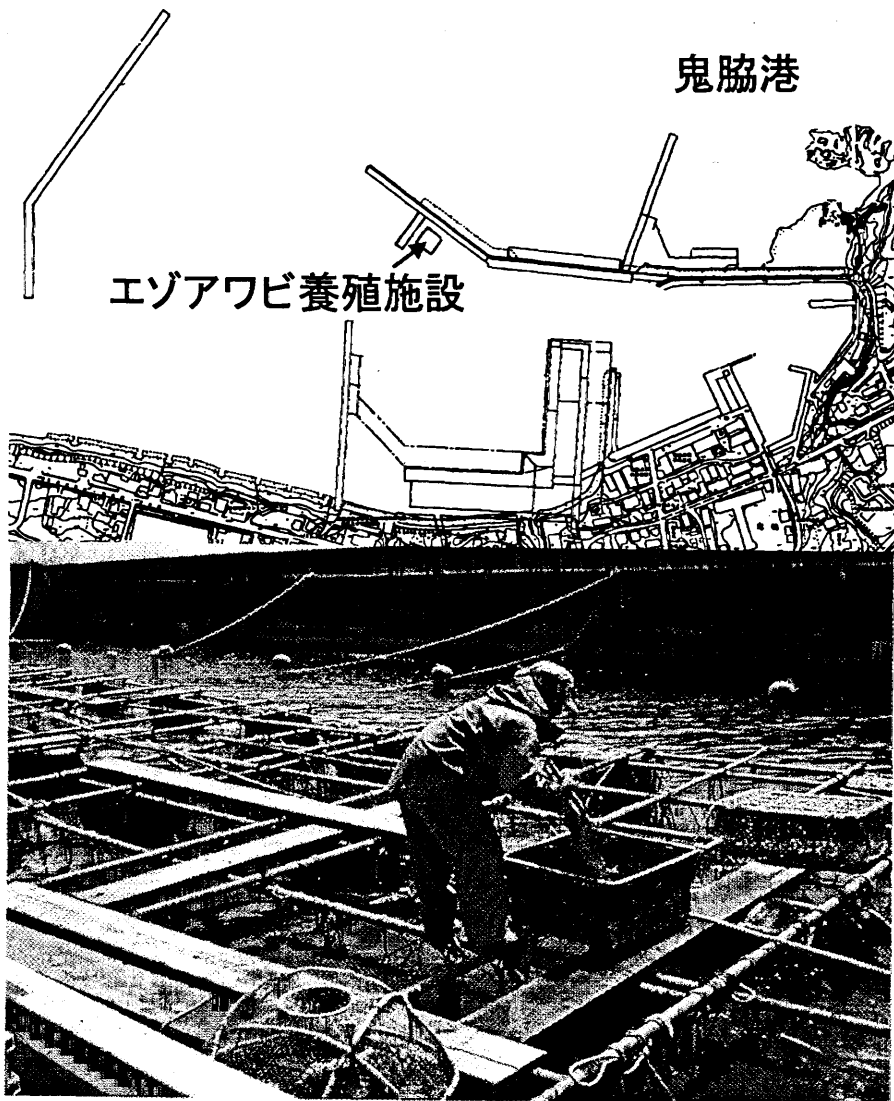


図3：エゾアワビ養殖施設

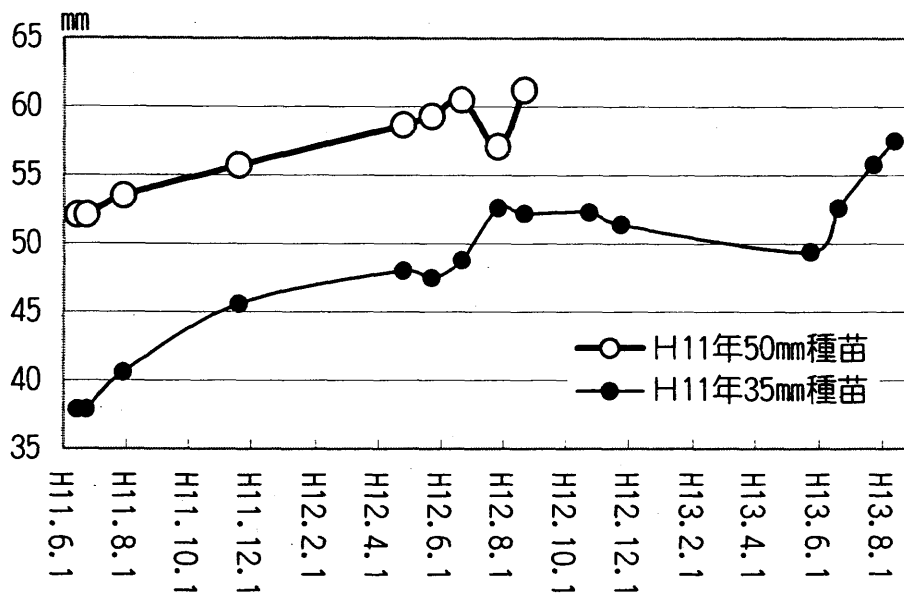


図4：平均殻長の推移

表1：各種苗の生残率と購入元

種苗	購入:個	生残:個	生残:%	購入元
H9年35mm	3,700	2,346	63.4	栽培漁業振興公社
H10年35mm	10,000	8,132	81.3	栽培漁業振興公社
H11年35mm	10,000	8,429	84.3	栽培漁業振興公社
H11年50mm	1,000	805	80.5	栽培漁業振興公社
H12年35mm	10,000	8,738	87.4	栽培漁業振興公社
H12年50mm	2,500	2,230	89.2	ひやま漁協
H13年50mm	5,600	-	-	ひやま漁協

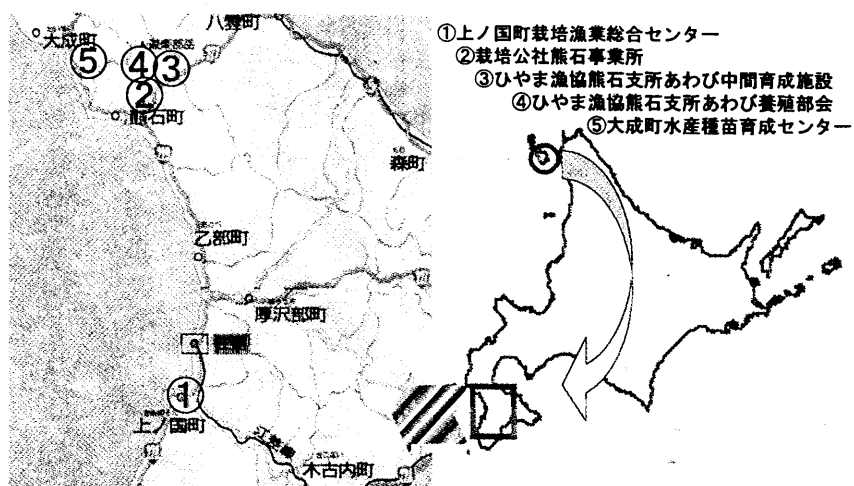


図5：先進地視察

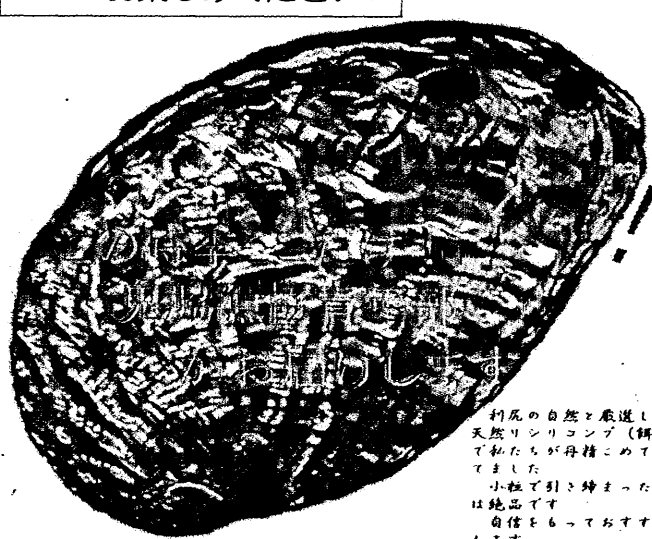
秋のアワビ

夏のアワビ

さりと上品な味

春のアワビ

旅館の
御食事で
お楽しみください。



利尻の自然と厳選した天然リシリコンブ(餅)で私たちが丹精こめて育てました。小粒で引き締まった身は絶品です。自信をもっておすすめします。

まずはお電話を！
鬼脇漁業協同組合
利尻郡利尻富士町鬼脇字鬼脇
☎01638-3-1221
FAX 3-1117



図6：販促ポスター

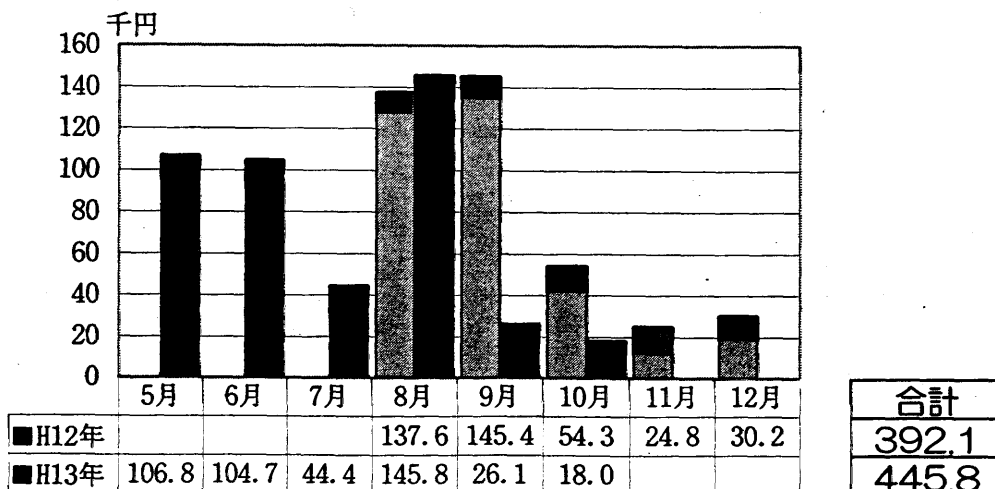


図7：販売実績

表2：勉強会の内容

年月日	内 容
H11.5.8	①先進地の養殖状況について ②種苗生産の状況について
H11.7.29	①餌料海藻について
H11.11.17	①種苗について ②出荷について ③H12年度計画について ④適水温について
H11.12.14	①H11年度試験結果について ②養殖パターンについて ③他地区の状況について
H12.2.23	①先進地視察について ②施設について
H12.4.14	①先進地視察報告について ②H12年度計画について
H12.5.16	①H12年度計画について ②H13年度購入種苗について
H12.7.18	①試験販売について
H12.11.27	①H12年度試験結果について ②H13年度計画について
H13.4.12	①試験販売について ②選別作業について
H13.9.21	①H14年度種苗について ②測定結果について ③交流大会について

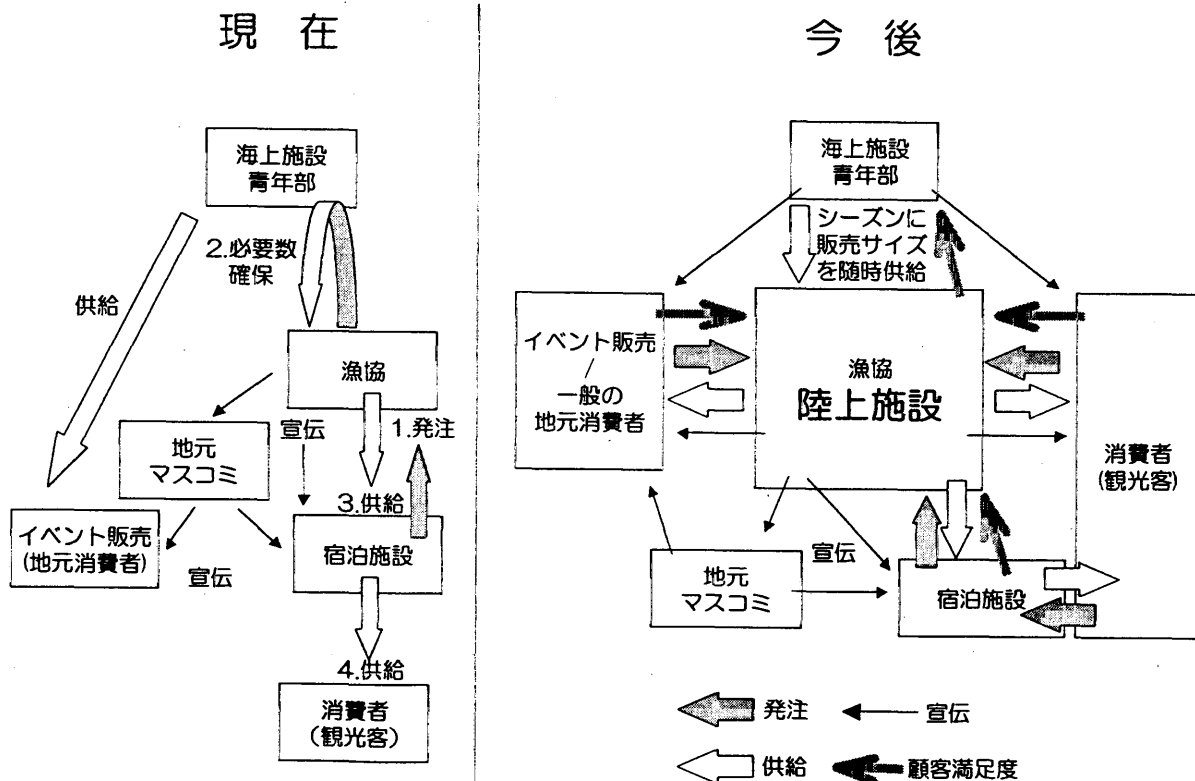


図8：今後の陸上施設の利活用